

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472200443		
法人名	社会福祉法人鶴寿会		
事業所名	痴呆性高齢者グループホームさわやか		
所在地	宮城県柴田郡川崎町大字川内字筑畑8-3		
自己評価作成日	平成22年11月30日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年	12月	17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境にあり、散歩を日課にし四季の変化を感じ取りながら生活をする事が出来る。職員の年齢層が幅広い為、昔ながらの料理や伝統・歌等利用者様の話しと共感し合う事ができ、楽しみながら生活に繋げていくことが出来ている。長所を引き出し、短所をカバーしあいながらチームケアに努めている。利用者全員で、近隣の観光地等に一緒に出かけ見学・外食をすることを定期的に行い実施し喜ばれております。又、特別なリハビリではなく、日頃から歌に合わせて体を動かす場面を取り入れながら健康増進に繋がっています。歌が大好きな利用者様が多く、童謡・懐メロ等を一緒に歌い「さわやか」合唱団として命名し楽しみの一つになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季折々の豊かな自然に囲まれ、和風旅館と言っても良い落ち着いた木造りの建物である。そして、職員は、「ご利用者様は人生の先輩」と敬意に満ちたケアの支援に徹しており、そこには信頼と安心感に満ちた入居者の姿がある。町や地域包括支援センターとの連携も良好で、各種研修、行事等へも積極的に参加している。ホームとして、本年10月に初めて看取りを経験し、職員にも前向きな考えが芽生えてきていることから、その貴重な経験を活かして昨年来の課題である看取りに関するあり方の検討を更に前進させることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームさわやか)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で共有し、毎朝事業所独自の理念を唱和し、法人理念を念頭に置き日々のケアに入っている。加えて、各職員から理念を基に一日の仕事の目標をも話してもらい仕事に取り組んでいる。	理念は職員全員参加で作成し、地域の一員としての馴染みの関係を大切にしていける事をうたっている。毎日のミーティングで唱和している。職員は共通の認識で理念を基に「私の今日のケアの目標」を立てて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・小学校等の行事には積極的に参加をし、交流を図っている。散歩や町内への外出・通院等で地域の方と挨拶を交わしたり近況を報告している。地域の方よりグループホームを理解して頂き、畑で収穫した野菜等届けてもらいその中から交流する機会が増えて来ています。	町民文化祭や小学校で開催される学芸会、運動会への招待を受けて全員で参加している。入居者は、散歩や通院時等に地域の方々と挨拶を交わしたり、時には野菜等の提供を受けたり等の交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学校の実習生を積極的に受け入れています。面会に来園されたご家族様やご親戚様、知人の方等に認知症の人に対する理解を深めて頂く努力を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回地域の方やご家族、町の職員・地域包括支援センターの職員が参加をし開催している。近況報告と共に「さわやか」便りを配布し、取り組みについて理解してもらい意見等を頂いている。会議の内容や議事録については全職員で周知しサービスに反映させ、ホーム内に掲示している。	運営推進会議は、法人内他の施設と合同で年6回開催しており、町と地域包括支援センターからも毎回参加している。家族、地区長の参加もあり、ホームの近況報告、行事計画等活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査に来園時には、利用者様の暮らしぶりを見て頂きながらニーズ等情報交換を密に行なっている。町主催の研修会等には積極的に参加をし、馴染みの関係を作り上げている。入居関係等で地域包括支援センターとの連絡を密にしている。	町と地域包括支援センターが計画する研修会には必ず参加し、馴染みの関係を築いている。認定調査で来園の機会を捉えて、入居者の暮らし振りを見て頂き情報の交換を図り、相互に理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等において定期的に身体拘束について確認をしあい拘束のないケアを提供しています。夜間帯は、防犯対策の為施錠をするものの中はオープンにしており抑圧感のない見守りに努めている。身体拘束の研修会に参加した職員を中心に勉強会を行い共有認識を図っている。	身体拘束の無いケアの提供について、職員会議の機会を利用して研修済みの職員を講師に勉強会を実施している。日中は常に無施錠の状態、入居者の特徴を把握し抑圧感の無いさりげない見守りに徹している。同一敷地内の他の施設との相互見守りもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日曜日ごとにケアカンファレンスを行い、利用者様に対する言葉遣いや支援方法について話し合い虐待につながる行為がなかった等を確認し合うと共に常に尊厳を持って接していけるように努めている。虐待についての研修会に参加した職員が主になり勉強会を実施し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対応が必要な利用者様はいませんが、必要になったときスムーズに対応していけるよう体制を整えている。認知症リーダー研修等に参加をし権利擁護等の報告を行い制度の理解を全職員で周知していくことに努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には必ず契約に関する説明を行ない納得をいただく説明をし同意を得ている。介護報酬の改定等により利用料が増加する場合は、直ちに通知し承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時には笑顔で応待し、ご利用者様の近況を報告し必ずホームや利用者様への支援等についての要望等聞く事を実践している。電話等での対応に於いても同様で必ず近況を報告している。出された意見等についてはミーティング等で話し合い速やかに対応している。	家族との相互情報伝達は十分であり運営に反映されている。家族からの色々な相談等は、職員の育成に役立つとの考えから積極的に問題の提起を求めている。家族会が自然休会となっており、再起を望みたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には、理事長にも出席して頂き意見や提案を発言出来る機会がある。毎月「さわやか」独自の支援目標と業務目標を掲げ、実施した内容と反省を全職員から話してもらっている。日頃からコミュニケーションを図り意見等が話しやすい雰囲気作りにも努めている。	毎月実施される職員会議には、必ず理事長が出席し職員からの色々な提案を受けている。職員からの提案は、どんな些細な事でも採りあげており、ホーム周りの草刈等を事業者に発注した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得した後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせるよう努めている。年2回人事考課を行い職員が向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の勉強会や町地域包括支援センター主催の研修会等に参加をしケアの質の向上に努めている。外部研修は、職員の段階に応じて研修に参加をし、毎月の職員会議で報告会を行っています。又、報告書は全職員で回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協主催の研修会等に参加をしたり、GH協南ブロック主催の事例報告会等に参加をし交流を深めている。又、交流を持つ事でサービスの質の向上を目指している。認知症実践者研修・リーダー研修を受講し他事業所の職員とのネットワークづくりが出来、情報交換の機会になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と同じ目線で面接し、傾聴の姿勢を保ちご本人様の抱えているニーズを表出しやすい雰囲気作りには徹している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様が困っていること等を話し出せる話術や傾聴を心がけ聞くことに徹し関係づくりに努めている。又、事業所として出来るサービスをわかり易く説明をし、安心をして頂く事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の思いや状況等について確認をして行きながら信頼関係を築き上げ、必要なサービスが提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩である事を全職員が共有し、同じ生活場面において共に楽しみを分かち合い尊敬しあえるよう関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行うと共に、毎月生活の様子や健康状態等を担当職員がご利用者様の写真を添えて手紙を書き報告をしている。遠方よりご家族が面会に来た際は、座敷スペースと一緒に食事が出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの行きつけの店や美容室等、地域で暮らす知人宅への訪問等ご利用者様の希望により、継続的な交流が出来るよう支援している。又、電話等での連絡も取りやすい環境にしている。	入居前からの行きつけの店や地域の知人宅への訪問を支援したり、通院の際、事前に友人に電話連絡をして、病院で会えるようにしたり等、地域との繋がりを大事にする支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話を楽しんだり一緒に歌を歌ったりして楽しい時間を共有出来る様な環境設定に努めている。おやつや食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしている。役割活動等を通して利用者様の関係が円滑になるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方にもご利用者様と一緒に遊びに行ったり、又、遊びに来て頂いたりと交流を深めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	楽しみのある生活が送れるよう一人ひとりの思いに耳を傾け思いに沿った支援が出来るよう努めている。意思表示の困難なご利用者様は日々の仕草や表情から汲み取ったり、ご家族様より情報を頂き検討している。	楽しみのあるホームでの生活づくりの一環として、食事の準備の手伝い、廊下等の清掃、ごみ捨て等、入居者一人ひとりの能力に応じた役割を決めて、何かをやり終える喜びを感じることを大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様のプライバシーを確保しつつ、これまでの暮らし方を尊重し、極力その希望に沿った形の実現に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で気づいた事、いつもと違うことを見逃さず記録に残し、職員全員で共有しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の方には日頃のかかわりの中から思いや意見を聞き、より良く暮らしていけるように反映させるようにしている。職員全体でアセスメントを行いながら意見交換、モニタリング、カンファレンスを行いケアプランに反映させている。	ケース記録や生活の様子、家族からの情報等は、月毎に色違いの文字で、例えば食事制限を必要とする場合等、具体的に書き込まれケアプランの見直しに反映させている。結果は必ず家族と相談して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌とミーティングノートに個別の生活の様子や健康状態等を記録し、引き継いでいくことにより情報の共有を行っている。又、この中で気づいた事や早急に対応が必要な事などは職員間で話し合い今後の介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が遠方より面会に来て頂いたり、昼食時に面会があった時は食事を提供し一緒に食べて頂いている。利用者様やご家族様より通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し個々の満足を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様全員参加の行事には、法人別事業所のリフトカーやワゴン車を運転手付きでお借りし出掛けている。町運営の温泉に入りに出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族様が希望するかかりつけ医になっている。ご家族様と協力し通院介助を行ったり依頼があれば通院送迎の支援も行っている。内科・眼科の訪問診療もあり医療関係との連携を密にしている。	入居者や家族からの要望に応じて、かかりつけ医への通院に職員が同行し、日常の細やかな状況説明がなされている。受診結果は詳細に記録し家族へ報告している。内科、眼科は毎月訪問診療が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化には常に目配りし、早期発見に心がけ変化等に気づいた事があればまずは法人の看護師に相談をし、適切な対応や医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、すぐにサマリーを作成し病院に届け病歴や状況を把握して頂いています。病院関係者には、グループホームに入所をしている事を説明し、長期入院にならないようにアプローチをしている。又、時間の許す範囲で見舞いに行き状況を確認しながら退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者様に対しては、早い段階で事業所の現状を説明し、どの段階まで支援出来るか説明をし、その後の方向についても詳しく説明を行なっている。重度化に伴う意思確認書を作成し、アンケートにて意向を確認している。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、看取りの指針とマニュアル作成は完了している。本年10月に看取りを経験し、この問題については職員も前向きであり、今後の課題としては、看護師、医師等との連携のあり方への取り組みである。	ターミナルケアの問題については、避けて通れない課題であり、更にもう一歩踏み込んで看護師、医師との連携のあり方について、引き続き取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人看護師主催による勉強会に全職員参加をし、緊急時の対応や夜間帯の利用者様の状態把握について学んでいる。マニュアルを読み返し理解を深めている。夜勤時の緊急時のマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年1回は消防署立ち合いの基で避難訓練を実施、避難経路の確認、通報訓練、消火器の使い方を行っている。年2回定期点検・スプリンクラー設置に伴い取り扱い説明等に立ち会い確認を行っている。全職員にも定期的に周知徹底を実施している。	消防署立合いの避難訓練と夜間を想定した独自の訓練も夜勤の職員が全員実施している。スプリンクラーは設置済みで現在、自動通報装置の工事中である。隣家が遠いということから、地域消防団へ協力要請中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者様の呼び方・支援時には、人生の先輩として敬意を持って接している。皆の前で恥ずかしい思いをする事がないようさりげない声かけを心がけている。個人情報等の守秘義務については定期的に職員間で周知徹底を図っている。	「入居者は人生の先輩である」との信念で敬意を持って日々接している。入居者が何を求めているのか、常に意識してちょっとした態度、表情、話口調等から読み取って支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に着用する衣類等を選んで頂く際に、選択肢を少なくし混乱せず選びやすいように支援しています。意思表示が困難な方には表情から汲み取ったり、声かけの反応から理解をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、職員側の都合にならないよう一人ひとりのペースを大事にしそれに合わせた対応に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事に参加する際には、いつもと違ったおしゃれを楽しめるよう支援し、お化粧品たり、髪を整えたりして外出がより楽しいものになるよう配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には、利用者様の意見を取り入れたり、昔から馴染んできたメニューを入れ楽しみのある食事を提供している。調理・食事・後片付けは、利用者様の持てる力を活かしながら役割分担をし、職員と共に行っている。誕生日には、誕生者の好きなメニューを中心に特別メニューを盛り込	食材の買出しから料理の手伝い、味見役と入居者が得意とする役をそれぞれに担当している。食事は職員も一緒にテーブルで摂っている。入居者によっては、さりげない支援を受けながらの楽しい食事風景となってい	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やトロミ食、糖分・油分控えめ等一人ひとりの状態にあわせて提供し、栄養がバランスよく摂取出来る様心がけています。水分摂取量を個別票に記載し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に合わせて支援を行なっている。舌下ブラシにて舌磨きをしたり、洗口液を使用してのうがいや口腔内ウエットテッシュにて拭き取りをしたり工夫をし、口腔内の清潔保持に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の利用者様にに応じてトイレ誘導を行いプライバシーを確保しながら排泄を促す事に力を入れている。紙おむつ・パットを使用している利用者様も、トイレやポータブルトイレにて自然の形で排泄が出来るよう支援を行っている。又、紙おむつ・パット類は本人に合ったものを提供している。	排泄チェック表により自力排泄を基本に、さりげない誘導を行っている。入居者一人ひとりの状況に応じて、オムツの種類を選んでおり、夜間帯はその人に合わせ巡回時に誘導することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックをすることにより排便パターンを記録している。便秘対策として、水分補給を一番に心がけ、野菜や繊維質の多い食事の提供や手作りの寒天を色々アレンジし、昼食時やおやつ時に提供している。体を動かす体操等や散歩も日課としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく希望に合わせて入浴して頂ける様職員間で調整し工夫をしている。又、お湯の温度も好みの温度で入浴して頂けるよう配慮をしている。仲の良い方同士一緒に入浴して頂く事もある。体が温まるまで湯に浸かって頂く為一緒に好みの歌を歌ったり会話を楽しくしている。	仲の良い人同士が入ったり、歌ったり話し合ったりして、ゆったりと入浴を楽しむように心掛けている。入浴にあまり気が進まない様な場合には、「温泉に行こう」等の興味の湧く声掛けをして誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく外気に触れ活動的に過ごせるよう支援を心がけ、昼寝もあまり長くないよう声がけしている。夕食以降は、大きな声を出さないよう職員間でも気をつけている。就寝前に一緒にお茶を飲んだり会話をしてから休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、全職員で回覧し薬の目的、副作用について確認した上で服薬支援を行なっている。処方情報提供書綴りをファイルし常に確認出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの利用者様の出来る事楽しみごとを把握し、得意の分野で発揮してもらえるような仕事をお願いし、やって頂いた後には必ず感謝の気持ちを伝え、意欲に繋げている。食事作りや梅干・干し柿作り等利用者様の経験や知識を発揮して頂き、面会時に食べて頂いたりご家族様へお土産として提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候をみながらホーム周辺の散歩は毎日欠かさず行っている。歩行困難な利用者様の散歩や外出には、車椅子やリフト付きの車を利用し出掛けている。町主催のイベントに出かけたり、買い物やドライブと積極的に外出している。又、季節に合った場所を選び利用者様と話し合いながら全員で出かけている。	外出は、積極的にその機会をつくり、入居者に声掛けして実行している。年何回かの季節毎の遠出となる場合には、リフト付きの車も利用し、車椅子の入居者も含め、全員で行く事としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される利用者様に於いては、ある程度のお金を持って頂き買い物の支援をおこなっている。又、自分でお金を持っていない利用者様においても外出時等に財布を持って頂き買い物をする楽しみを味わって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時には電話を取りついたり、希望があれば電話をかけられる支援を行っている。ご家族様からの手紙が届いた時希望があれば読み聞かせたり、手紙を出せる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの電球は20W白球を使用し、夜間使用した時にも目がくらまないようやわらかな光を心掛けている。食堂の電気も自然な明るさを出せるように工夫されている。木造作りで昔馴染みの作りになっている。掘り炬燵や縁台があり、一緒に会話をしたり日向ぼっこが出来る心地の良いスペースになっている。	ホーム全体が和風旅館とも言える落ち着いた建物となっており、特に一巡出来る回廊は日当たりも良く散歩ルートにも最適である。全館床暖房で、廊下周りの壁には色々な行事の写真や入居者が作成した絵画等が貼られ、楽しい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間や食堂どちらからでも中庭、外庭が見渡す事が出来居心地のよい場所になっている。又、玄関先にもベンチが置いてあり散歩後の休憩場所になっている。一人ひとりの居心地の良い場所を把握し、いつでも過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた寝具類や家具等を持ち込んで頂き馴染みの物で使いやすくなっている。特に新しい利用者様にはご家族様と話し合いながら自宅での配置を出来るだけ再現し、落ち着いたくつろげるスペースになるよう取り組んでいる。	居室は、入居者それぞれの好みに合わせて人形や家族写真、馴染みの家具等で心地よい環境を作っている。特に家族の方とも話し合っ、自宅での部屋の配置そのものの独自の安らぎを持ち込んでいる入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には利用者様の写真を掲示し自分の部屋がわかりやすいように表示をしている。掃除用具入れには赤いリボンで目印にする等をしている。視力の低下が見られる利用者様には、その都度適切な声がけに徹し安全面に配慮している。		